

# JRPA リカパー 通信

Japan Recovered Paper Association Public Relations Magazine

## No.5

発行 / 全国製紙原料商工組合連合会  
東京都台東区東上野 1-17-4

電話 / 03-3833-4105

発行人 / 栗原 正雄

編集長 / 中村 昌延

発行日 / 2022年2月28日



大阪城

# CONTENTS

## 3 年頭所感

全国製紙原料商工組合連合会	理事長	栗原 正雄
経済産業省製造産業局素材産業課	課長	吉村 一元
日本製紙連合会	会長	野沢 徹
公益財団法人古紙再生促進センター	代表理事	長谷川 一郎

## 7 地域組合 理事長挨拶

北海道製紙原料直納商業組合	理事長	長谷川 裕一
東北製紙原料直納協同組合	理事長	鈴木 隆雄
全原連北陸ブロック	理事長	増田喜代治
関東製紙原料直納商工組合	理事長	大久保信隆
東京都製紙原料協同組合	理事長	上田 晴健
静岡県製紙原料商業組合	理事長	菊池 初彦
中部製紙原料商工組合	理事長	石川喜一郎
近畿製紙原料直納商工組合	理事長	矢倉 義弘
京都府紙料協同組合	理事長	澤田 修一
大阪府紙料協同組合	理事長	實守 敏訓
兵庫県製紙原料直納協同組合	理事長	仲 清次郎
中国地区製紙原料直納商工組合	理事長	小六 信和
四国製紙原料商工組合	理事長	藤田 實
九州製紙原料直納商工組合	理事長	岩淵 慶太

## 21 特集Ⅰ 古紙再生促進センターの今後の取組

～ 2024年・古紙再生促進センターは創立50年～  
公益財団法人古紙再生促進センター  
専務理事 川上 正智

## 26 特集Ⅱ 安全防災委員会からのメッセージ

全国製紙原料商工組合連合会  
安全防災委員会 委員長 齋藤 米蔵  
関東製紙原料直納商工組合  
安全防災委員会 委員長 大久保 薫

## 31 地域組合活動

近畿製紙原料直納商工組合青年部、紙朋会について  
大和紙料株式会社 代表取締役社長 塩瀬 宣行

## 34 地域組合活動

九州製紙原料直納商工組合の活動  
渉外広報委員長 坪井 隆宗  
紙藍会会長 寺松 雄次

## 39 編集後記

近畿製紙原料直納商工組合 渉外広報委員 中村 昌延

## 年頭所感



全国製紙原料商工組合連合会  
理事長 栗原 正雄

皆様、新年おめでとうございます。

昨年中は全原連が実施して参りました古紙近代化推進事業に対しまして、御支援御理解を賜り心より御礼申し上げます。

これまで我国の最大の古紙輸出国であった中国が、昨年初より予定通り古紙の輸入を全面ストップしました。その影響が年間を通して、甚大なものになるのではないかと心配されました。しかし幸いにも昨年の需給状況は順調に推移し、一年を終える事が出来ました。

昨年の1月より9月までの需給状況を振り返りますと、主力の段ボール古紙の回収量は前年比101%（764万トン）でメーカーの消費量は前年比107%（653万トン）であり、段ボール古紙の輸出量は前年比80%（122万トン）でありました。出入の差は11万トンであり、ほぼ均衡状態になりました。その上、段ボール原紙の輸出が上半期は月平均8万～9万トンに達しました。

輸出された段ボール原紙は国内では回収されないことから年間を通して段ボール古紙の需給はタイトな状況が続きました。また、新聞・雑誌の発行部数が1割前後減少し、回収も1割強減少したものと思われます。古紙全体として回収量は前年比で10%前後落ちたのではないのでしょうか。

この状況下、古紙回収量を少しでも増加させる為、まだ回収余力がある雑誌、雑がみの回収増加策を検討する委員会を立ち上げることが昨

年10月の理事会で承認されました。本年はこの対策を強力に推し進めて、古紙回収量の増加を図り、ゴミ減並びに環境の改善に少しでも貢献できる様、会員の皆様と共に努力して参りたいと思います。

また、昨年はコロナウィルスの感染が拡大し、今後懸念される第6波の感染を防止する為、様々な対策が国を挙げて推進されています。人の流れを少なくする為、観光や旅行の中止や自宅でのリモートワークへの切り替え等、様々な工夫がなされました。

それに伴い、商品や食材、日用品を買いに行くための外出を減らす為、宅配便等を利用する人が増えました。これらによって、商品の輸送及び商品を梱包する機会が増え、梱包材、特に段ボールの需要が増加しました。

様々な需要が減少する中、段ボールの使用は前年比プラスに転じました。その結果、古紙の品種の内、ほとんどの品種が前年比より減少した中、段ボール古紙の比率が最大となり、昨年は古紙全体の約半分を超えたと思われます。本年も引き続き段ボールの需要が拡大する様に期待しております。

本年中にコロナウィルスによる景気の減退が解消し、人々の流れが従前に戻り、景気が上向き様、心より念願致します。

本年も引き続き御支援賜ります様、心よりお願い申し上げます。

## 年頭所感



経済産業省 製造産業局  
素材産業課 課長 吉村 一元

令和4年の新年を迎え、謹んでお喜び申し上げます。また、平素より経済産業行政に対する深いご理解と格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、先進国を中心にワクチン接種が進み、経済活動の回復の兆しが見えた一方で、東南アジアでロックダウンによるサプライチェーンの混乱が生じるなど、コロナの影響が残る1年でした。まずは、これまでお亡くなりになられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、今なお、健康面や生活面で多くの影響を受けている皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、皆様には、テレワークの推進や時差出勤、職域接種によるワクチン接種の加速など、様々な形で御協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

昨年はまた、世界各地の災害に伴う影響など、サプライチェーンの強靱化が重要視された一年でもありました。経済産業省としては、生産拠点の集中度が高い製品・部素材や国民が健康な生活を営む上で重要な物資の国内生産拠点等整備を促す取組を進めてまいりました。

足下の措置を着実に進める一方で、ポストコロナを見据えた新たな社会の実現や経済成長に向けた動きも注視していかなければなりません。戦略的物資の確保や重要技術の獲得に対して各国が巨額の産業政策を打ち出しており、経済と安全保障が密接不可分な領域における対応が重要になっています。更には、国際的な脱炭素の流れの加速の中で、環境と経済の両立に向けて、これまでの製造プロセスそのものを見直す必要も迫られています。

我が国のCO<sub>2</sub>排出量の約1/4を占める基礎素材産業分野における脱炭素化推進に向けては、グリーンイノベーション基金による研究開発支援や、自家用石炭火力発電等の脱炭素化推進に向けた調査事業などに取り組んでまいります。これらの取組は、もはや経済成長の制約ではなく、新たなビジネスチャンスにつながる成長戦略そのものです。革新的な技術開発を通じ、日本の素材産業がこれまで以上に国内外の産業界全体に貢献する産業となっていくことを期待しています。

また、製造業の競争力強化を図る上で、サプライチェーン全体での取引適正化や、取引条件の改善も重要な課題です。昨年は、取引環境の改善に向けた取組の普及・啓発を進め、紙・パルプ産業でも関係する二つの団体において、下請取引適正化に向けた自主行動計画の改定を実施いただきました。加えて、需要構造の変革や原燃料の高騰、国際的な人の往来制限など、厳しい経営環境が続く中、国内の安定供給を維持しながら最適な事業体制を再構築し、より一層の環境投資を進めていくことが求められます。

新型コロナウイルスの感染拡大についてはまだまだ注視が必要な状況ではありますが、経済産業省としては、様々な施策を総動員し、産業界の皆様とも連携しながら素材産業の成長のために全力を尽くしていく所存です。新たな変革の必要な時代に、是非皆様のお力をお借りしたいと思います。そして、この新しい時代を迎えるにあたって、皆様の御健康と御多幸を、そして素材産業の更なる発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 年頭所感



日本製紙連合会  
会長 野沢 徹

2022年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、コロナ禍からの復活の年となることが期待されましたが、東京を中心に緊急事態宣言が4次にわたり発令されるなど、引き続き社会経済活動において制約を受けた1年となりました。

我が国経済は、緊急事態宣言の発令下における個人消費の落ち込みを中心に、実質GDPは2021年1-3月期と7-9月期で前期比マイナス成長となるなど、景気は停滞を続けました。緊急事態宣言の全面解除以降は、イベント制限等の緩和に加え、今後の政府におけるコロナ関連の大型経済対策にも期待が寄せられるところではありますが、諸外国における感染者数のリバウンドや変異株の出現等、予断を許さない状況が続いています。さらには、半導体の供給不足や石油・石炭等の資源価格上昇も短期的な解消が難しい状況となっています。

こうした経済情勢の下、当業界を取り巻く需給環境は厳しい状況が続いています。紙・板紙の生産・出荷は前年からプラスに転じましたが、これはあくまで前々年からの反動増に過ぎず、コロナ前の水準に回復するまでには至っていません。

本年につきましても、紙・板紙の需要は品種間での増減の濃淡はあるにせよ、グラフィック用紙の減少トレンドが継続する一方で、段ボール原紙を中心とするパッケージング用紙や衛生用紙は底堅い需要を維持するという傾向には大きな変化はなく推移していくものと思われま。一方、収益面においては、昨年来の石油・石炭価格の高騰、薬品や副資材の相次ぐ値上げ、物流コストの上昇、古紙原料の不足等、収益に対するマイナス要因が山積しており、とりわけ高騰をみせているエネルギー価格の適正化は不透明であり、その動向如何によっては最大のリスク要因になると見えています。

こうした状況下、我々製紙産業の持続可能な成長に向けての鍵は、新常态における社会構造変化に如何に対応していけるかだと考えています。渋沢栄一翁が近代製紙業を興して以来、150年を迎えようとしています。その間、社会構造の変化による新常态の状況を幾度となく経

験してきた中において、その変化に順応しながら事業を継続してまいりました。少子化、IT化の影響に加えウィズコロナ、アフターコロナにおける新常态は我々製紙産業にとって決して追い風とはいえませんが、各社それぞれの強みを生かしながら事業を展開していくことにより難局を乗り越えていけると確信しています。

そのための一つのキーワードは、新たな産業政策として注目されているグリーン・トランスフォーメーション（GX）です。GXは気候変動の抑制に加え、資源循環・サーキュラーエコノミー、生物多様性への対応により、経済成長を実現させ、産業構造や社会経済の変革を促していく取り組みであります。一昨年来、政府は2050年にカーボンニュートラルの実現を目指し、そのため2030年度のCO2排出ガスの削減目標の引き上げを表明しました。また、昨年のCOP26においても石炭火力のフェーズダウンへの合意がなされる等、エネルギー革命ともいわれる産業革命以来の大きな変革期を迎えつつあり、企業活動にも温暖化対策や生物多様性問題への具体的な対策が迫られるようになっていきます。その対応には費用も含めた大きな負担を伴うものではありませんが、我々製紙産業は、森林の適正な維持・管理と木材利用による循環、製造工程におけるエネルギーの効率的な利活用、そして生産された紙・板紙製品は高度な古紙リサイクルシステムの中での循環とGX社会実現の基礎を携えており、今後ますます当業界の果たす役割に期待が高まってくるとともに、新たなイノベーションを興す可能性を持ち合わせています。昨年1月に発表した業界の2050年カーボンニュートラル産業の構築実現を目指す長期ビジョンへの取り組みを着実に進めていくとともに、本年4月には「プラスチック資源循環利用促進法」が施行され、プラ代替・脱プラの社会的要請を受け紙・板紙製品や新素材であるセルロースナノファイバーに対する関心の高まりもこの動きを後押しするものと期待されます。

我々製紙産業を取り巻くサプライチェーンの裾野は広く、多くの関連業界の皆様とも協働しながらこうした社会の変革期に新たな事業領域の拡充を図っていくことができれば、我々製紙産業の持続可能な発展に大いなる前進が見えてくるものと確信しています。

日本製紙連合会といたしましては、日本の製紙産業が持続可能な産業として発展していくよう産業全体の共通課題に取り組むとともに、業界各社の経営努力が結実するよう的確な情報提供や環境整備に努めてまいります。

最後になりますが、関係各位の今年一年のご健勝、ご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

## 年頭所感



公益財団法人古紙再生促進センター  
代表理事 長谷川 一郎

令和4年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年のが国経済におきましては、内閣府の月例経済報告において、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、引き続き持ち直しの動きに弱さがみられるとされております。

また、新型コロナウイルス感染症については、ワクチン接種等の効果もあって、新規感染者数は足元で低い水準にあり、行動制限も段階的に解除されておりますが、感染の再拡大などによる景気の下振れリスクに十分注意することが必要です。

こうした状況において、昨年10月に発足した岸田政権は、経済の下支えや押し上げを図るため、11月に事業規模総額で78.9兆円のコロナ克服・新時代開拓のための経済対策を策定し、ウイズコロナ下での社会経済活動の再開となる危機への備えなどの大規模な財政政策を講じたところでした。

さて、製紙業界の1年を振り返りますと、一昨年来、板紙の生産が紙の生産を上回る状況が続いております。これは、紙の生産がデジタル化、少子高齢化等による構造的な減少に加え、コロナ禍で新聞やチラシなどの需要が低下した一方、板紙の生産は通販の増加や段ボール原紙の輸出に支えられ、堅調に推移したことが主な要因でした。昨年の1月～10月の累計でも、板紙の生産が紙の生産を約42万トン上回っており、今後もこの傾向は続くものと思料されます。

古紙を取り巻く状況を見ますと、昨年の年初から中国向けの古紙輸出量がゼロになったことにより、古紙の輸出先の振り替えが必要でしたが、東南アジア、台湾などへの拡販が進み、また、段ボール原紙輸出などによって、国内の古紙余剰を回避してまいりました。

他方、昨年夏頃から、国内の古紙を取り巻く環境が大きく変化し、コロナ禍や天候不順の影響を受け、古紙の発生や回収が低調に推移したこともあって、国内の古紙在庫が減少してきており、地域によって温度差はあるものの、昨年末以降の更なる古紙の在庫減少が懸念される状

況です。

センターとしましては、緊急事態宣言解除で停滞していた人や物の流れが改善されることによって、古紙の発生や回収も回復し、需給バランスも落ち着いてくることを期待しておりますが、持続的な紙リサイクルシステムの維持・向上を目指し、今まで以上に需給両業界と協力し、適切に対処していきたいと存じます。

ご高承のとおり、我が国の令和2年度の古紙回収率は84.4%、古紙利用率は、67.5%と極めて高い水準を維持しています。資源有効利用促進法に基づく古紙利用率の目標は、令和2年度末において65%とされておりましたが、コロナ禍という特殊な環境下の中、結果として、当該目標を達成することができました。これもひとえに、製紙業界や古紙業界をはじめ、回収業界、自治体などの紙リサイクルに携わる関係各位の長年に亘るご努力の賜物と考えている次第です。

次期古紙利用率は、令和7年度末の目標となりますが、紙・板紙の生産や古紙の回収・輸出状況などを踏まえ、令和2年度末の目標と同様に65%に据え置かれたものと理解しております。

当センターは、昭和49年の設立以来、古紙需給両業界などの関係者のご支援・ご協力を得て、紙リサイクルに関わる地道な活動を重ね、古紙回収や古紙利用の促進に貢献してきたところであり、今後とも、新目標65%の達成をはじめ紙リサイクルが一層促進されるよう努力を重ねてまいります。

このようなセンターの古紙回収や利用率向上への取り組みは、資源である古紙の有効利用や廃棄物の減量化を通して、我が国の持続可能な社会の実現を目指すものであり、ひいては、“SDGs”という大きな枠組みの中での社会的要請に應えるものであると認識しております。

昨年につき、本年も製紙業界、古紙業界にとって大変厳しい状況が続くかと思われませんが、当センターといたしましては、我が国の紙リサイクルの健全なる発展に影響を及ぼさないよう、行政、製紙業界、古紙業界、回収業界など、様々なステークホルダーの方々と多様な交流を推進し、相互理解を深め、古紙市場、経済動向についても知見を深め、今後とも安定した紙リサイクルを目指してまいります。

また、製紙業界、古紙業界をはじめとする様々な紙リサイクル関係者の叡智を結集し、紙リサイクルの促進の要として諸活動を進めて参りたいと考えております。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして、希望に満ちた明るい年になりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

## 年頭挨拶



北海道製紙原料直納商業組合  
理事長 長谷川 裕一

### 組合としてSDGsの取り組みへ

新年明けましておめでとうございます。

皆様の健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、毎年年月が経つのは早いもので、あっという間に1年、また1年が過ぎていく感覚は私だけではないと思います。

2年間に及ぶ新型コロナウイルスの感染が世界中に広がる中、日本では7月～8月東京オリンピックが開催されました。

開催直前まで開催するか、しないか、と国民の意見が二分される中、無観客で開催されましたがコロナの第5波の感染は過去最大の感染者となり病床確保、ワクチン接種の対応面で菅内閣への国民の支持率が下がり9月末には退陣となり、その後の総裁選では岸田内閣が誕生すると言う慌ただしい1年でした。

第6波は必ず来ると多くの専門家が唱えている中、南アフリカからオミクロン株と言う新たな変異コロナウイルスが発見されました。現在のデルタ株での日本の感染者数は大きく減少しましたが今後も感染対策の徹底はしばらく継続することになると思います。

岸田新政権が打ち出している新しい資本主義の下で持続可能な経済から成長と分配を実現すると明言しました。

人の話しを聞くのが得意の岸田首相ですから中小企業の話も良く聞いて進めて行って貰いた

いと思います。

日本の紙パルプ業界は新型コロナウイルスの感染で落ち込んでいましたが、徐々に回復傾向にあります。この北海道では2年間で3工場での紙生産の停機、転抄と製紙メーカーの再編があり、北海道の組合各社にとって、ネガティブにならざるをえませんでした。しかし各製紙メーカーのきめ細かな対応により安心して新年を迎えることができました。

世界的に紙の需要は落ち込んでいますが、今後、業界として紙の活用についてはもっと幅広い面から研究、開発が必要と考えます。

北海道の令和3年上期の発生状況は前年比 新聞94.4%、段ボール98.4%、雑誌94.4%、その他94.0%で合計29万2千tの96.4%でした。消費については全体で60万4千tの99.5%となりました。

昨年度も組合活動は一昨年度と同様に限定的な活動に制約されましたが、3回目のワクチン効果も期待しながら、今年は組合各社とリアル会合が出来ることを楽しみにしております。

また、全世界は本気になってカーボンニュートラルを目指したSDGsの取り組みを始めています。当組合各社は環境関連業務の一端を担っているため、持続可能な開発目標が出来る様理解を深める組合活動も実施していければと思っております。

皆様にとってより良い年になることご祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。

## 年頭挨拶



東北製紙原料直納協同組合  
理事長 鈴木 隆男

新年明けましておめでとうございます。

令和4年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

日頃より、当組合に格別の御理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は一年を通して新型コロナウイルス感染拡大により世界経済に大打撃を与えたばかりでなく、精神的にも疲労困憊の1年でありました。残念ながら有観客にはなりませんでしたが東京オリンピック・パラリンピックも開催され、一時的にせよ、感動という大きな渦が塞ぎ込んだ重い空気を払拭してくれました。

オリンピック選手ばかりではなく長嶋茂雄世代の私にとっては、あの開会式での長嶋氏の姿・笑顔を拝見した時には「コロナなんか負けてはいられない！自分も頑張らなければ！」と大きな勇気を与えてもらいました。

さて、昨年おぼろの辛丑（かのと・うし）は、古きことに悩みながらも終わりを告げ、新しき芽生えを見いだす年であると云われました。確かにおぼろ臙げながらも我々業界にとりましては従来のあるり方と、今後の在り方との棲み分けを十分に考えさせられた一年ではなかったでしょうか。

今年の干支は壬寅（みずのえ・とら）であります。「壬」は厳冬を耐えて内に蓄えた陽気で次代の礎となること。土の下で芽が膨らんで土がぐんと盛り上がっている様子を意味するとの事です。「寅」は豊穰を助けるミミズが土の中で動き、芽吹きが始まった状態で春の胎動を感

じさせるイメージであり、強く大きく成長するといった意味合いだと云われております。つまり、辛く厳しい冬はいずれ終わり、暖かい春がくる。冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ花々しく生まれる。これが「壬寅」であります。

安心してコロナと共存する時が間もなくくる事でしょう。この2年間のコロナ禍が生み出した様々な現状は、決してコロナ禍が収束すれば元に戻るというものではないことは誰しもが認めるところでしょう。

正に量的拡大路線からの脱却が求められ、従来の「競争」の時代から「共創」へと移り変わる必要があるのではないのでしょうか。業界が直面する様々な課題解決や今後のあるべき姿にむけた組合員一丸となった取組が必要です。

東北協組としては組合員同士が切磋琢磨し、価格競争ではなく品質競争のような適切な競争の中で経営を充実させ、新たなる業界を共創してゆければと願っております。古紙品質の向上になお一層励み、全国製紙原料商工組合連合会・古紙再生促進センターとも連携を図りながら、さらにリサイクルシステム活動の継続を推進していきたいと思っております。

何卒関係各位のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。最後になりますますがワクチン開発も順調に進み、各種大会がWEB開催ではなく皆様の体温を感じる対面形式での開催が出来ることを願い、新年の挨拶とさせていただきます。



## 年頭挨拶



全原連北陸ブロック  
理事長 増田 喜代治

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当たりご挨拶申し上げます。

賛助会員として全原連にお世話に成っております北陸ブロック代表の(株)増田喜 増田喜代治と申します。

当ブロック会員は、富山県は(株)島田商店、イシモト環境資源開発(株)、(株)分家商店。石川県は、(株)石山商店、(株)上野源東商店、島畑商事(株)。福井県は清水紙料(株)、(株)清水勉商店、(株)増田喜と3県で各3社ずつの加入で、法人組織には成っていない関係から、賛助会員として加入させて頂いております。

北陸地区には、中越パルプ工業(株)、富山製紙(株)、立山製紙(株)、加賀製紙(株)、中川製紙(株)、レンゴー(株)金津工場、川端製紙(株)と製紙工場も多数あり、地域内での納入が主力で、安定した地域だと思っております。

富山県はアルミ産業、鑄造産業の工場関係、石川県は観光産業関係、福井県は繊維製造関係からの古紙回収と、小中学校、地域の団体等の集団資源回収も定着をしておりましたが、御多聞に漏れずコロナ禍に左右され、月に依っては

400t～500tも仕入れが少ない時期もありました。ようやくコロナ禍も収束?に向かいつつ、1日も速く経済の回復を願っております。

当社の事を少し書かせて戴きますと、昭和21年創業、昭和24年11月資本金300万円にて法人化、(有)増田喜商店を設立。昭和36年製鉄原料部門を北鋼産業(株)として分離独立。昭和49年奥越営業所を開設、同年石川県小松市に(株)カミ商小松を設立。平成7年カミ商武生(越前市)を設立、平成18年に福井営業所を開設し社名を株式会社増田喜に改称。平成27年(株)カミ商小松、(株)カミ商武生を吸収合併し小松営業所、武生営業所とし、現在に至っております。

それ迄主に地域の回収業者からの引き取りに頼って参りましたが、回収業者の後継者離れ、廃業等のためその方のお得意先を譲り受け、スーパー、商店、工場等一般回収に携わる事と成り、社員の増員、パッカーの増車、拠点回収場の増設等と邁進し現在に至っております。

まだまだ若輩者ですが、今後とも宜しくお願い致します。

## 年頭挨拶



関東製紙原料直納商工組合  
理事長 大久保 信隆

新年明けましておめでとうございます。

皆様には五黄の虎年、輝かしい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平素は関東商組の諸活動にご理解と格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと二年にわたって急進的な危機 COVID-19 アルファ株、デルタ株、年末にはオミクロン株と見えない敵に怯えた中、年初から中国による固体廃棄物としての古紙の輸入禁止で始まりました。感染症パンデミックによって世界的にコンテナ不足が起こり、物流システムがマヒし混乱する一年間だったと思います。当初、古紙は余剰するのではないかと考えられていましたが、パンデミックの影響で欧米から東南アジア諸国へ古紙が来なくなりました。その結果、日本へのオファーが増え価格も上昇し、バランスが取れ胸をなでおろすと、我が国の紙の生産、出荷の減少は止まりませんでした。

段ボール原紙の生産は一昨年比 4.8% 国内出荷はマイナス 0.7% で段ボール原紙はほぼコロナ前の水準に戻っています。古紙回収量が伸びていないため国内優先で対処していますので、古紙の輸出量は 1～10 月 2,024,796 t、前年比 73% となっております。

今はグローバル化の時代で国際循環を考えるかも知れませんが、我々は国内製紙会社が発展する事が一番だと考えております。古紙の回収システムには長年にわたる伝統があります。和紙の回収は江戸時代から熙代勝覧<sup>\*</sup>にラオヤ、傘張替え、ざる売り、反故買い人が描かれてお

り原料商のはじまりと思います。明治から渋沢栄一が紙会社をつくり大正、昭和と製紙原料商が古紙回収のシステムを築いてきました。

昨年は全国でベラーマシンの死亡事故が続いたため安全第一「鍵を抜け」のステッカーを作り組合員に配布しました。次に品質向上の一環として段ボール箱の油染み、蠟引き段ボールの写真つきチラシを作り従業員を指導し、発生先や回収業者にも品質向上に協力をお願い致しました。また、今後雑誌、雑がみの回収増を図るため、全原連の雑がみ利用促進検討委員会に委員を派遣しております。これからどう扱って行くか単独の商品となるか、回収システムとして定着するか、などいろいろなことを試行錯誤しているところです。そして持ち去り問題も廃棄物処理法に一文を加えた形で取り締まるといふ動きにあります。一日も早く立法化できることを願っています。

最後に新春から製紙会社にお願いです。発生量が減る中、回収人の高齢化、油、電気料、番線、人件費の上昇等により採算が悪化しています。引き続き古紙の安定供給に力を入れてまいります。輸出価格とは言いませんが、是非とも古紙の基準価格見直しで、古紙需給バランスの維持に向けた回収体制確保が図れるようお願いいたします。

今年も色々な問題が出るとは思いますが、誇りの持てる業界を目指していますので組合員の皆様には年頭に当たり重ねてご支援とご協力のほどお願いいたします。

※熙代勝覧（きだいしょうらん—1805 年文化 2 年日本橋町並み風景の絵巻物）

## 年頭挨拶



東京都製紙原料協同組合  
理事長 上田 晴健

新年あけましておめでとうございます。一昨年、昨年とコロナが猛威を振るい一向に収束の傾向がみられません。一方、日本では昨年の夏をピークにコロナ感染者数は大幅な減少となっております。しかしここにきてオミクロン株の出現により先行きが懸念されます。

このような状況下で当組合員の主力仕入先である出版社様、印刷・製本会社様、商業印刷関係などもコロナ禍の影響を受け古紙の発生は低調に推移しており、発生の回復は厳しい状況となっております。

主力販売先である家庭紙メーカーでは消費は芳しくないものの、発生減により余剰状態からタイトな状態へと変わりつつあります。過当競争が懸念される事態となりつつあります。冷静な判断で対応していただきたいと思います。

当組合は集荷と問屋が共同して古紙業を行っております。集荷業者単体ではなく持込問屋と情報を共有し、発生元のお客様に現状を正確に伝え、より一層の集直一体経営を進め、経営基盤の強化を図っていけるよう情報発信を進めてまいります。

## 年頭挨拶



静岡県製紙原料商業組合  
理事長 菊池 初彦

### 静岡商組らしく!!

新年を迎え、皆様方に謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年10月31日の総選挙では岸田自民党が大勝して衆議院の過半数を獲得しました。これにより安定政権となり、日本経済も上向きになることを期待したいと思います。

私達の製紙原料界は相変わらず先の見えない状況になっております。経済産業省からは、紙のリサイクルを促進していくためには消費者、地方自治体、回収業者や製造事業者等の幅広い関係者が一体となったリサイクルに取り組む必要があるとし、関係者に協力依頼がなされています。

紙リサイクルの基本は古紙品質の維持・向上であるとして、排出先における分別の強化・禁忌品の除去、流通段階での選別の徹底、古紙回収量・回収率と古紙消費量・利用率の向上を図ることが大切です。

国内発生量は、依然として国内使用量を上回る状況が続いており、輸出に頼らなければ古紙需給の安定が図れない状況に変わりはありません。一番の輸出国であった中国が、環境規制を強化する政府当局の方針で海外からの古紙の輸

入を制限しており、今後の動きも流動的であります。そのような中、需給対策として他地区では、東南アジア諸国に輸出することを進めております。

静岡地区という独特な地域の私たちにとりましては、今後の会社経営として十分な配慮が肝要であります。そのためにも製紙メーカー様との信頼関係をより構築しなければならないと思います。また今後の古紙状況に対応するために未来を担う子供たちへの教育も必要です。

私達静岡商組として今、リサイクルへの理解を深め、資源循環型社会の実現に向けて再資源化のための必要性和理解を学ぶため、小学校4～5年生を対象に静岡県内において出前講座を進めております。昨年はコロナ禍の中、県内で11校実施いたしました。全国の中でも（公財）古紙センター本部の指導のもとにこれだけ積極的に活動しているのは当組合員の努力の賜物と思っています。

この活動をより効果のあるものにするためには製紙メーカーの皆様のご協力が必要不可欠であります。

最後に組合員の皆様のご繁栄とご発展と、そしてご家族様や社員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

## 年頭挨拶



中部製紙原料商工組合  
理事長 石川 喜一郎

明けましておめでとうございます。組合員の皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと心よりお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、オリンピック・パラリンピックが開催されたものの、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として緊急事態宣言が再度発出され、人の移動制限がなされたため、景気は足踏み状態が続きました。ワクチンの接種が進み治療薬も開発されましたが、暫くはwith コロナを前提とした経済活動を行う事が必須となります。

またSDGs（持続可能な開発目標）の影響もあり、日本ではグリーン社会の実現とデジタル化の推進の方針が打ち出され、環境問題への対応が進んだ一年でした。

古紙業界については、中国の環境保護政策により固体廃棄物の輸入禁止が実施されましたが、中国以外の東南アジア諸国への古紙輸出を継続した事や経済活動が抑制され、古紙の発生も減少した事、更に段ボール原紙での輸出も増えた事などにより古紙の需給がタイトな状況になりました。古紙市況の安定には、古紙と共に原紙での輸出調整が肝要となります。

今後、世界で段ボール原紙の増産計画もあり、古紙市況においても影響を受ける事になりますが、日本国内の古紙の発生は減少傾向であり、過当競争にならない努力が必要です。

その努力とは、古紙の品質向上や利幅の確保、古紙回収サービスに対する社会的価値を向上させていく事や紙リサイクルにおいて国連が提唱

したSDGsの12番目に掲げる「つくる責任・つかう責任」を推進し未来に寄与する事です。

平成16年に主要銘柄になった雑がみは、社会課題のゴミ減量に貢献する為に設けられた銘柄と言っても過言ではありません。名古屋市も同年から集団回収に雑がみを新たに設け回収する事になりました。SDGsの観点からも社会の課題であるゴミ減量に大きく貢献している事をPRする。そして製紙メーカーの皆様にもその重要性を一層ご理解いただき、雑がみ混じりの雑誌古紙を優先的に使用してもらおう事。雑がみの配合を高めた商品をエンドユーザーが優先的に購入する社会が紙リサイクルSDGsのゴールとなり、使われた商品がルール通りに分別排出される事が理想です。

またグリーン社会の実現を目指す日本においてもSDGsの教育が学校で行われており、就職情報会社が実施した調査によるとSDGsの達成に取り組む企業に就職志望度が高く、多くの学生が仕事を通じた社会課題の解決に関心を寄せている実態が明らかになりました。少子化が進む日本社会において分別文化を守り、紙リサイクルシステムを維持する為にも古紙業界の社会貢献をSDGsの視点でPRする事が重要です。

更にカーボンニュートラルの推進など製紙業界のサプライチェーンである古紙業界も社会の変化に対応していかなければなりません。

最後になりましたが、これからの変革の時代を乗り越え、より良い業界へ発展するとともに、本年も皆様の益々のご発展ご健勝を祈念致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

## 年頭挨拶



近畿製紙原料直納商工組合  
理事長 矢倉 義弘

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様には新たな気持ちでお健やかに、新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

去年は、コロナに始まりコロナで終わる新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。未だ終息には至っていませんが、全国の新規感染者数が低い水準で推移しているのをニュースで見て、ひとまず安堵している毎日です。しかし、ウイルスも変異を繰り返して生き残りを図っていることから、世界的に終息するまでにはかなりの時間を要するものと覚悟しなければなりません。

ウイルスは地球上から永遠に無くなることのない存在で、太古の昔から派生してきた病原体です。古代の人類はウイルスに感染しても自身の体力で打ち勝つしかなく、打ち勝った者だけが免疫を獲得して生き延びてきました。ワクチンのない時代に多くの犠牲者を出しながら何年もかけてパンデミックを克服してきたことを考えれば、人類の歴史はウイルス感染症との闘いであったと言っても過言ではありません。現代はワクチンが次々開発されるという有り難い、幸せな時代です。そんな時代に生きていることを感謝し、今のパンデミックと闘わなければならないと考えています。

一方、古紙業界に目を向けますと、今回のコロナ禍の影響で古紙の発生量が減少し、供給的にも極めて厳しい状況に陥っています。それ以前から電子メディアの日常生活への浸透が進んでいた中で、さらに新聞、雑誌、情報用紙を中

心に紙の消費量は減少し、それに伴い古紙の発生量も減少しています。その中で唯一、包装資材の段ボールの需要だけが堅調に推移しており、この分野での発生量は幸い減少せずに済んでいます。しかし、紙の消費量の減少が響いて古紙問屋の総取扱量は減少傾向が続いています。

また、古紙のグローバル化が進み、最近では輸出価格が高騰しており、取扱量を確保するために仕入れの過当競争が常態化しやすい状況になっています。その結果、取扱量と利幅の双方が低下し、古紙問屋にとって最も利益の出ないパターンに陥ることが懸念されます。古紙問屋のように人件費の比率が高い労働集約型産業では、数量の確保も大切ですが、それ以上に適正利幅の確保が最も大切な経営上の要件となります。

昨年「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」が終わりましたが、その次に期待される関西地区のイベント「2025 日本国際博覧会（大阪・関西万博）」が3年後に控えています。今年はいよいよ開催準備が本格化し、関西活性化へのスタートの年となることに期待したいものです。

組合員の皆様におかれましては今年1年、厳しい経営環境の中でも各社それぞれ経営基盤の強化を図られ、共に新しい時代を切り開いていくことを願って、新年の挨拶と致します。

最後に私事ながら、昨年秋の叙勲で全国製紙原料商工組合連合会のご推薦により、旭日双光章の栄に浴することができました。誠に光栄に存じますと同時に、これも偏に関係者の皆様方のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

## 年頭挨拶



京都府紙料協同組合  
理事長 澤田 修一

新年あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になり有難うございました。本年もご指導、ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げます。

昨年より、ZOOMにより理事会に参加させていただいております。全原連役員の皆様、事務局の皆様の日々のご活動に敬意を表します。「持ち去り新法」、「雑紙活用拡大」、「鍵を抜け」については特段のご高配に預かりました。有難うございました。

昨年当初、古紙は余剰するであろうとの予測でしたが、年末は不足の様相を呈していました。古紙需給が本年どのように推移していくのかは私にはわかりませんが、世の中にも、当業界にも良い循環がめぐるように活動できればと思います。まさにSDGsがその中心となるかと思えます。各社がそれぞれで「SDGsの17のターゲットの内のいずれか」を選択して進める機運が高まればと思います。

## 協賛各社

株式会社イワフチ（九州製紙原料直納商工組合）

株式会社リソースプラザ（九州製紙原料直納商工組合）

## 年頭挨拶



大阪府紙料協同組合  
理事長 實守 敏訓

新年、あけましておめでとうございます。  
2022年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を  
申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの新規感染者数の  
増減に合わせて社会経済活動の制限と緩和が繰  
り返されてきた1年でした。過去最大の感染拡大  
となった第5波も何とか乗り切り、それ以降の  
新規感染者数は低い水準を維持しています。  
ワクチン接種や治療薬の開発が進んでおりこの  
まま収束に向かえばよいのですが、第6波到来  
の可能性も懸念されており、引き続き感染防止  
対策の徹底を図らなければなりません。

このようなコロナ禍の混乱の中で、史上初の  
1年延期で無観客となった東京オリンピック・  
パラリンピックが開催されました。開催の是非  
をめぐる様々な意見がありましたが、選手たち  
の奮闘が多くのドラマや感動を生み、無事閉幕  
しました。振り返れば松山英樹選手の男子ゴルフ  
のマスターズ・トーナメント優勝、笹生優花  
選手の全米女子オープンゴルフ優勝、そして米  
大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手の MVP  
獲得など、日本人アスリートたちの快挙がコロ  
ナ禍の暗い雰囲気にも光を与えてくれたことで、  
改めてスポーツの素晴らしさを実感した次第です。

翻って昨年の古紙業界を振り返りますと、コ  
ロナ禍の影響を受け依然として厳しい状況が続  
いています。

段原紙メーカーは、中国の古紙輸入全面禁止  
の影響で安くなった古紙で作った段原紙をアジ  
ア各国に輸出していましたが、コロナ禍による  
コンテナ不足と古紙の発生減少に加え、東南ア  
ジア各国で段原紙の生産量が大幅に増加したこ  
とで日本の古紙への引き合いが強まり、輸出価  
格は高騰しました。秋口になると段原紙の輸出

は急激に減少しましたが、海外の需要が減少し  
たのではなく、原料不足で国内メーカーの輸出  
余力がなくなったからです。

また、ミックス古紙は中国に続いてアジア各  
国も輸入禁止を打ち出したことで輸出が減少し  
た上、洋紙向けの上物古紙が家庭紙メーカーに  
還流し、家庭紙メーカーの荷余り感が強まりま  
した。ところが春以降は海外からの引き合いが  
強まり高値で輸出されるようになり、さらに秋  
口には産業古紙の入荷も減少し、家庭紙メー  
カーは古紙を入手しにくい状況に転じました。

このような中で、紙・板紙の国内需要は段ボ  
ールなどの板紙の伸びに対し、新聞や印刷・情報  
用紙などの紙は減少が続いています。我われ古  
紙問屋の古紙の取扱量は紙の需要減少が響いて  
年々減少していますが、人件費や燃料代が上昇  
している中で、嵩が高く比重が小さい段ボ  
ールの比率が増加し、嵩が低く比重が大きい紙  
の比率が減少しているため、kg当たりの回収  
経費は高くなっています。また、地域による回  
収効率の差という点でも、例えば関西で300kg  
回収できるだけのコストと時間をかければ東京  
では1tは回収できると思います。今後はそう  
いう点も考慮しながらビジネスを展開する必要  
があります。

また、紙加工品には紙単体の製品とほかの素  
材との複合品がありますが、できるだけ複合品  
を減らしてリサイクルしやすい紙単体の製品に  
切り替えるよう、作る側、使う側の双方に訴え  
かけたいと考えています。特に紙のパンフレッ  
トが透明フィルムに封入されたDMなどは中  
身が見える工夫を施した紙単体の封筒に切り替  
えれば廃棄時の分別の手間を省くことができま  
す。緩衝材も同様で、紙単体の緩衝材ならその  
ままりサイクルに出せます。これらはSDGsの  
目標12の、持続可能な消費と生産のパターン  
を確保する「つくる責任、つかう責任」にマッ  
チした取組として積極的に進めていくと良いと  
考えています。

今年1年、関係先の皆様方の御健勝と御発展、  
また一日も早い新型コロナウイルス感染症の終  
息を祈念し、昨年同様の御支援と御協力を賜り  
ますようお願い申し上げます。



## 年頭挨拶



兵庫県製紙原料直納協同組合  
理事長 仲 清次郎

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、アメリカの大規模な財政出動による経済復調により、世界的経済が回復に向かう中、まだまだコロナの影響が世界各地で猛威をふるっています。しかし日本国内では少しずつ終息に向いはじめました。

日本の古紙も特に雑誌が中国の輸入禁止から行き場を失われたはずが東南アジアにおいて、需要が高まり、また国内も原紙輸出が増えたことから、国内の古紙発生不足に見舞われ、世界的にも古紙不足が露呈しています。このような環境の中、私たち少しでも回収量を増やすためにも、兵庫県製紙原料直納協同組合では、行政（神戸市環境局資源循環政策課）と常に話し合いを持ちながら、資源集団回収（処点回収、各戸回収、常設保管庫）を協力して進めています。

兵庫県製紙原料直納協同組合には下部組織に

神戸古紙リサイクルの会（業者約52社）があり、資源回収活動に地域内での事前周知、事後報告を常に行いながら各団体や地域住民と友好的な関係を保ちながら回収量拡大に努めています。

こうした取り組みを大事にして市民、行政、業者が三位一体となり良好な関係を保ちながら今後も進めてまいります。

特に今年は古紙の価格が落下し、古紙環境が悪いので自治体に「ゴミにすれば自治体のゴミ処理費が嵩む」と警笛を鳴らしているところです。そして行政に業者助成金の増額をお願いしています。

今後も古紙業界の更なる発展と組合に在籍して良かったな、とさせていただけるように努力して参りますのでより一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶にさせていただきます。

## 協賛各社

栗原紙材 株式会社（関東製紙原料直納商工組合）

## 年頭挨拶



中国地区製紙原料直納商工組合  
理事長 小六 信和

どうにかならんかな と思うこと。

新年にあたり今年あたりどうにかならんかな  
と思うことを書き並べてみました。

### ☆古紙業界

- ・売れたら高買い、余ったら押し付け合いとい  
う学習効果のない繰り返し。
- ・余ったら国内メーカーに泣きつき、不足して  
輸出価格が上がったら平気で輸出する節操の  
なさと面の皮の厚さ。
- ・公には「高買い競争をやめて適正利潤を！」  
と言いながら、自社に帰ったら高買い競争を  
平気でやっている嘘つき経営者の存在。
- ・社員さんの命（安全）に対する経営者の危機  
意識の欠如。
- ・業界会合席上での私語と、議論とは言いがた  
い場違いな役員同士の言い争い。
- ・名ばかり会長と名ばかり社長の多さ。
- ・古紙屋のくせに、ざつ紙を平気でゴミ箱に捨  
てる行為。
- ・社長はベンツかレクサス、社員は軽自動車と  
いう実態。
- ・古紙出荷地の改ざん等による製紙メーカーか  
らの運賃搾取など、詐欺行為や違法行為の存  
在。
- ・古紙のリサイクルをやっているから、自社は  
環境先進企業だと思い込んでいる大きな勘違

い。

- ・若い意見の活性化と、業界全体の若返り。

### ☆製紙業界

- ・ざつ紙のほとんどは製紙業界の製品なのに、  
古紙で返ってきた時に、あれは使える、これ  
は使えんと言われること。（SDGsの12番「つ  
くる責任 つかう責任」をよろしく願いまし  
たい。）
- ・国内メーカー間の競争と協調の両立。（競争  
なきところに発展なし。されど協調なきとこ  
ろに繁栄なし）
- ・黒船（海外メーカー）とのさらなる合戦準備。
- ・余剰時における古紙在庫積み増しの、製紙業  
界での意思統一。
- ・節操のない古紙業者に対する毅然とした態度  
と、姿勢の正しい古紙業者に対するアドバン  
テージ。

以上、お叱りやご意見をいただくことを覚悟  
で、思いつくままに書いてみました。

新年早々誠にご無礼とは存じますが、平にご  
容赦いただきたいと存じます。

この一年、製紙業界、古紙業界に災害がなく  
事故もなく、みんなが幸せな一年となりますよ  
うに祈念いたしたいと思います。

最後までお読みいただき、誠にありがとうご  
ざいました。

## 年頭挨拶



四国製紙原料商工組合  
理事長 藤田 實

明けましておめでとうございます。

全国製紙原料商工組合連合会組合員様におかれましては、コロナ禍においてデルタ株に続きオミクロン株と全世界での拡散に終息の気配が見られない中、各組合・各会社においての積極的な予防接種の甲斐もあり感染防止が成されたと思います。

四国商組においても各組合員の会社における感染防止措置により目立った感染の報告はありませんでした。

昨年を振り返りますと、コロナ禍における生活環境の変化で在宅での仕事が増え、家で過ごす時間が増えた分、古紙の発生状況にも変化が出てきました。宅配が増えた分、家庭での段ボール古紙の発生が著しく増加し行政回収等での古紙の割合が新聞・雑誌を凌ぐ量になり回収状況に変化が生じてきました。

段ボール古紙はそういった状況で増加していますが、新聞・雑誌古紙に関しては年々発生減少の一途です。その影響で家庭紙の原料になる模造・色上・ケント等も集荷が減少している状況です。この社会現象の今後の展開が心配です。

四国地区においての昨年の古紙の状況においては、エリアに大手の板紙・洋紙・家庭紙メーカーが存在している関係で、以前より各問屋において在庫過多になる事はなくメーカー納入出来ている状況です。仕入れに関しては昨年同様に学校関係・地方団体等の集団回収が中止とな

り、一般の方は家庭内の古紙を無料回収所や小売店舗のポイント回収BOXや問屋へ直接持込みや個別での訪問回収などで処理しており、問屋にとっては手間のかかる回収状況になっています。

古紙輸出に関して四国地区においては盛んではないですが、他地区においては一昨年の状況からは反転し、国内商社・海外商社が国内価格を上回る価格での購入状況が続いており、特にOCCはもとよりMIX・ハードMIXの引き合いが強く、ONPにおいても韓国を中心に引き合いが来ている状況です。

これに伴い国内メーカーへの原料供給に支障が出ている地域もあるようです。但し輸出に関して今年はコンテナ船のコンテナのスペースが取りにくくなり、フレートも高騰してきているので、輸出価格次第では輸出メリットが薄らぐ状況も考えられます。

本年、四国商組は昨年11月の定例会において、カーボンニュートラル及びSDGsに関して積極的に勉強し、今何が出来るかを考えて古紙リサイクルはもとより新しい分野の発掘研究をして、四国地区において環境改善構築に寄与して社会貢献していきたいと思っております。

最後になりましたが、本年も全国製紙原料商工組合連合会皆様の御発展と御健勝を祈念いたしまして新年の御挨拶とさせていただきます。

## 年頭挨拶



九州製紙原料直納商工組合  
理事長 岩渕 慶太

令和四年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は格別のご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中での1年だったと思います。日本をはじめ世界経済にも大きな打撃は避けられず、特に中小企業は依然として厳しい経営環境が続いていくと予想されます。

一方で日本では、ワクチン接種が進んだことにより感染者数が減少し、緊急事態宣言がひとまず終わるなど、わずかながら明るい兆しもあるのが現状だと思えます。

また、コロナ渦により社会情勢は大きく変化しました。行政のデジタル化の推進やSDGsの推進、脱炭素社会や多様性社会の実現など、新たな課題への対応が求められた年であったのではないのでしょうか。

さて、2020年に中国向けの古紙原料輸出が終わり、2021年の古紙原料は余剰して輸出価格も国内基準価格を下回る状況が続くと予想しておりましたが、相反する結果となりました。また、2021年下期からは欧米などでの経済再開にともない、モノの需要が世界的に増え、国際価格の高騰は、原油や天然ガスをはじめとし

た資源や農産物など、広範囲に及んでおります。

こうした要因により、他業種では原材料価格の高騰を販売価格に転嫁する動きがある中、古紙業界では、製紙メーカー側に価格決定権がある為、原材料価格の高騰を販売価格に転嫁する事が出来ておりません。その為、本来ならば仕入価格を抑えなければならないところ、発生数量が落ち込んでいる影響もあり、各問屋では数量を確保しようと過当競争がいまだに各地で起こっているのが現状ではないでしょうか。

超高齢化社会が間近にせまっている日本で働き手が少なくなる中、生産性を向上させることが重要と考えておりますが、いまだに数量ありきで、人ありきの業界気質が抜け切れていないと思われまます。

まだまだコロナ収束のゴールが見えず、古紙業界は厳しい経営環境が続くと思われまますが、利益を出すことを第一に考えた経営をすることが、持続可能な古紙リサイクルに貢献していくことに繋がっていくと思われまます。

最後になりますが、関係各位のご健勝とご発展を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 特集 I 古紙再生促進センターの今後の取組

# 「半世紀の節目に向けて」

～ 2024年・古紙再生促進センターは創立50年～

公益財団法人 古紙再生促進センター  
専務理事 川上 正智

全原連の皆様には日頃より、当センター事業運営に絶大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

いきなり、「半世紀の節目」のタイトルで戸惑われると思うが、「2024年」当センターは創立50年の大きな節目を迎える。戦後の復興期、高度経済成長期を経て国民消費は拡大の一途を辿り、家庭から排出されるゴミの量も増大、その減量対策が国家的な課題となる中、古紙の回収、利用促進に向けて当時の通産省や製紙会社、古紙問屋などの支援、賛同により1974（昭和49年）に発足した古紙再生促進センター。

一方、人口構造変化、地方過疎化、デジタル化が進み、循環型経済への流れも強まる中、我が国の紙リサイクルは大きな転換期の渦中であり、センターも事業計画で新たに「紙の資源リサイクル安定化対策事業」として「中長期的な課題整理に向けた検討」を織り込んでいる。それに向けて何を行っていくのか、手探りの部分が多いのだが半世紀の節目である2024年に向けて様々な取組を本年・2022年から段階的に始めていきたい。今回は折角頂戴した寄稿機会なので、その中でも

- ①中長期的課題整理に向けたキッカケづくり
- ②SDGsへの取組

二点についてお話をさせて頂きたい。

### 1. 中長期的課題整理に向けたキッカケづくり

半世紀弱前に発足した古紙センターは皆様からの賛助をベースとした事業活動を通じ、持続的な古紙の回収・利用拡大に向けて供給の安定・確保、品質の維持・向上に向けての歩みを重ねてきた。

しかしながら御多分に漏れず、右肩上がりを前提とした紙リサイクルの仕組みも大きな転換期を迎えている。次の半世紀に向けて、何をすべきなのか、何を目指すべきなのか。世の中の変化スピードが一層加速する中で今後の社会を予測することは従来以上に難しい。今後の様々な社会動向に影響を及ぼす「メガトレンド」。人口構造変化、都市集中・地方過疎化、DX、



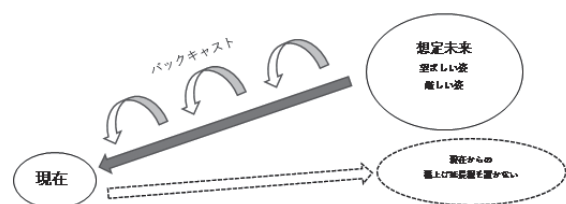
特に2000年の「循環型社会形成推進基本法」を契機に回収量は飛躍的に増加、中国の経済成長に伴う輸出も急増したが、その後の状況は改めて申し上げるまでもない。

GX や世界的な循環経済推進の流れ等々、様々なキーワードが頭に浮かぶが、まずはこのような社会動向・メガトレンドを踏まえた諸課題について様々な関係者からお話をお聞きし、広く紙リサイクルに関わる方々と共に整理を開始していきたい。公益的な古紙センターだからこそ大切な使命の一つだと考えている。

地域ブロック別の将来推計人口 出典・DBJ/ 人口減少問題研究会報告書

地域ブロック	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
北海道	100	97	94	90	86	81	76
東北	100	96	92	88	83	78	74
新潟	100	97	93	89	85	80	76
北関東甲信	100	98	95	92	88	84	80
首都圏	100	101	100	99	97	94	91
北陸	100	98	96	92	88	84	80
東海	100	99	98	96	93	90	86
関西	100	99	97	94	91	87	84
中国	100	98	96	91	88	84	80
四国	100	97	93	88	84	79	74
九州	100	98	96	92	89	85	81
沖縄	100	101	102	102	101	100	98
全国	100	99	97	94	91	88	84

中長期の日本における紙リサイクルを考えるにあたり、今後直面する社会全体の課題を前提に、将来の様々なチャンス・リスクの仮定や想定をイメージし、今後の道筋や対応課題を探る「バックキャスト」を前提としたいが、まずは将来的な「社会課題」「メガトレンド」をキーワードとして置き、そこから整理を開始したい。



想定される未来像と現状の間のギャップを把握し、「チャンスは更に拡大・リスクはその軽減を図る」それをもとに未来に向けた課題解決に向けてなすべきことを浮き彫りにできればと考えるが容易なことではない。しかし、そのような動きをベースに賛助会員はもとより、紙リサイクルのステークホルダーの関心も引出し、

最終的に多くの人々と将来像を共有、中長期的な紙リサイクルの課題対応を考えるヒント、風土になれば良いと思う。

その「キッカケづくり」として2022年より、紙リサイクルへの影響が予想される今後の国内外社会動向・メガトレンドをキーワードとしたオンライン・オープンセミナーの開催を広くステークホルダーにもお声がけする予定だ。

現在、「第一弾」セミナーを3～4月辺りを目途に最終調整中だが、年内に「第二弾」・「第三弾」を目指している。第一弾は以下の2テーマを予定。

「紙リサイクルの社会課題と未来が見える・オープンオンラインセミナー」

#### 第一弾

##### ①ポストコロナ社会の展望

日本の社会は、高齢化、人口減少、脱炭素などに加え、コロナによっても多大な影響を被っている。こうした社会環境の変化を俯瞰し、今後の課題や展望を考える。

##### ・「人口減少・成熟社会のデザイン」

広井良典 氏（京都大学こころの未来研究センター教授）

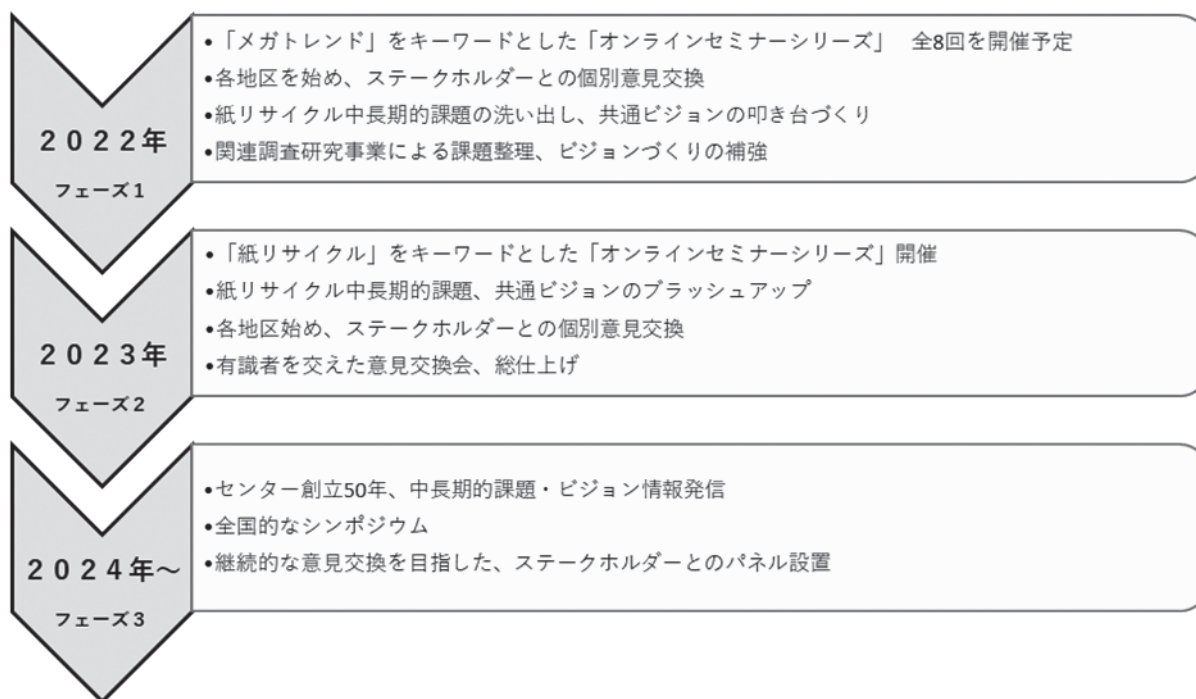
・1961年生。東京大学・同大学院修士課程修了。厚生省勤務を経て96年より千葉大学法経学部助教授、教授、マサチューセッツ工科大学 (MIT) 客員研究員

##### ②国際資源循環の現状と課題について

国際リサイクルが急速に拡大する中、各国の再生資源の獲得競争、相手国に環境汚染を生じさせる有害廃棄物輸出など、さまざまな問題も起こっている。国際リサイクルの実情、課題を解説する。

##### ・仮題「国際リサイクルの現状と課題」

小島道一 氏（アジア経済研究所新領域研究セ



ンター上席主任調査研究員)

・1965年生。慶應義塾大学経済学部卒業、カリフォルニア大学バークレー校農業経済・資源経済学科修士号取得。1990年アジア経済研究所入所

古紙センターは、2024年・半世紀の節目に向けて試行錯誤は覚悟の上、広く賛助会員を始め、紙リサイクルに関わるステークホルダーとのコミュニケーションを通じて中長期的な課題整理にあたっていきたい。以下、検討イメージです。

## 2.SDGs への取組

2015年の国連決議以降、2030年の目標達成に向けたSDGsに対する世界的な活動は我が国に於いても様々な取組が成されており、まだ道半ばの状況なるも「持続可能な社会作りへの貢献」を是とした取組は組織や個人を問わず、規模の大小を問わず、社会的課題の解決に向けて夫々のレベルで意識し参画していくべき活動であると思う。

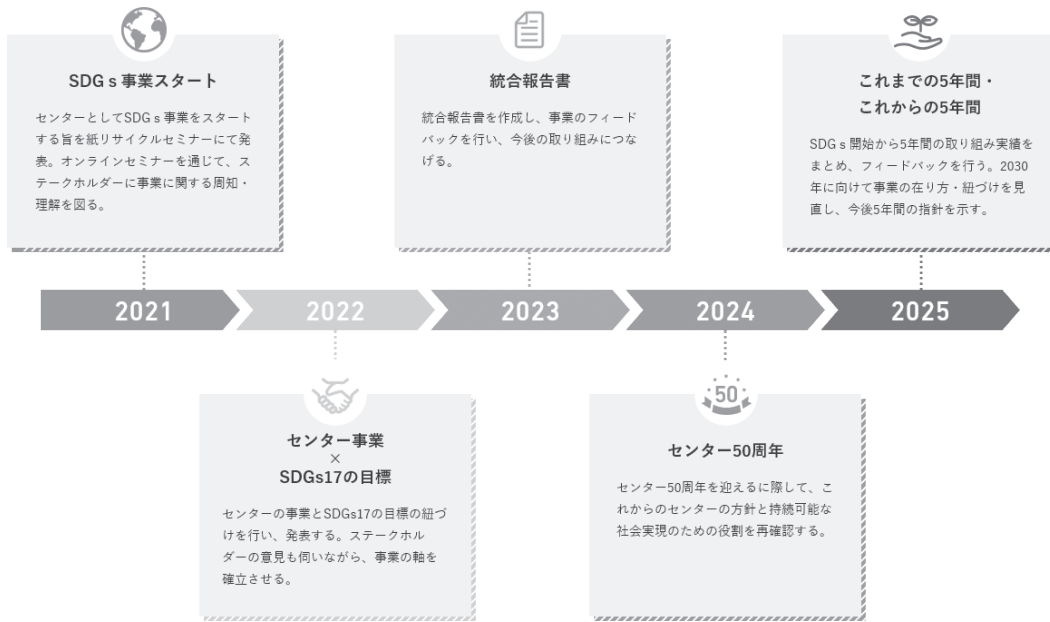
半世紀弱に亘る当センターの活動自体、持続

可能な社会作りに直結する歴史を重ねてきた。改めて会員のみならず、自治体、教育機関、一般家庭も含めたりサイクルに関わる様々なステークホルダーからの当センター理念や活動への理解や、会員相互の共通認識や意識向上の為、また社会の一員としての責務の観点からも、「SDGs」を通じた古紙リサイクルや、センターの意義について啓発活動を行っていく。

一昨年来、本部事務局にて専門家による基礎セミナーの受講や他組織の事例情報収集、これまでのセンター活動との関係性等々について研修の意味を含めてブレインストーミングを実施してきたが、昨秋には正式検討を開始、2022年夏を目途に紙リサイクル及びセンター事業とSDGsの関わりを整理し、需給両業界、自治体等の紙リサイクル関係者の御意見を伺った上で取り纏め、発表予定。

古紙センターの賛助会員構成（製紙会社・原料問屋）を考えると、SDGsに対する関心度や現時点での理解状況には相当のバラつきがあると思われる。本部事務局のマンパワー実状や受け手の会員状況を踏まえつつ、初歩的なSDGs

古紙再生促進センターのSDGs取組スケジュール（センターHP）



への理解や、古紙リサイクルと優先課題との紐づけ等々の意見を吸い上げていくスタイルを念頭に会員への定期的な啓発資料やオンラインでの情報提供なども試験的に行い、段階的にレベルを上げていきたい。

しても是非、共に勉強、参考にさせて頂ければと思う。前述の通り、我が国に於けるSDGsへの認知、活動普及については大手企業を中心にこの数年で加速度的に進みつつある。

SDGs 17 目標のテーマ別・分類例



全原連さんに於いても、SDGs への取組に向けて検討を進められているが、古紙センターと

特に大企業におけるSDGs 経営の推進の動きはグループ企業や取引企業にまで及び始めている。今、大企業は取引企業に対し、ESG 経営の一環として自社のサプライチェーンの妥当性チェックの為、SDGs に関連した環境や地域貢献の取り組みなどを確認したり厳しいところでは、CO2 削減目標数値をアンケートとして求めたりする場合もあるようだ。尚、大手企業の脱炭素化は自社事業が直接排出するスコープ1、更に事業活動に伴う熱エネルギー利用相当分のスコープ2が上乘せされる考えが主で、取引先、消費者などのサプライチェーンが排出するスコープ3も含める動きは、未だ道半ばのようだが、消費者、投資家あるいは欧米動向を意識する大企業では持続可能な自社サプライチェーンの透明性、妥当性を求める動きは更に強まり、その影響が紙リサイクルにも遡及する可能性は意識すべきと思う。



古紙業界のSDGsへの取組の意義については、様々なご意見があろうが、SDGsの取組みとは、世の中に様々な社会課題を事業活動を通じて解決を図ることであり、既に全原連の皆様も、三方良しの精神で「お客様と社会と自社（従業員含め）」とが、それぞれより良くなるという経営を意識していることも多く、気付かないうちにSDGs事業運営を行っている。まして紙リサイクルは、そもそも持続可能な社会作りの大切な立ち位置にある。

またSDGsは明確な認定基準があったり、誰かに認証されたりするものではない。ISOのような審査があるわけでもなく、直ちに確実に利益が生じるものではないが、身近なものであり、あとはこれを認識し、企業発展のためにも経営に活用すべきであろう。尚、その他、中小企業がSDGsに取組むに際して「意識すべき背景」として以下の指摘がある。

#### (市民・消費者・顧客)

昨今「SDGsに即した商品やサービスを好んで使用したい」という購買層が若者中心に増加、SDGs教育を受けてきた今の義務教育世代を含めた若者が中心消費者世代になるにつれて、同様の変化が顕著になりうる。

#### (資金調達)

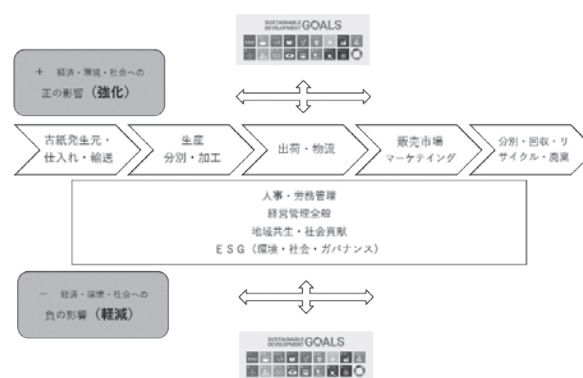
地域金融や中小企業の資金調達においても、SDGsの重要性が高まっており、都銀・地銀のみならず、信金・信組など多くの金融機関がSDGsに取組む企業への有利な金融商品を重視する傾向がある。地域経済においてもESG投資（＝企業活動における環境（Environment）、社会問題（Society）、企業統治（Governance）という非財務情報を重視する投資手法）の観点を重要視する動きは出てくる。

#### (人材確保)

2020年度から小中高で順次実施の新学習指

導要領は「持続可能な社会の創り手となる」との文言が盛り込まれるなどSDGsを意識した内容。また若者は生活様式、消費志向等々で自分事としてSDGsを捉えておりその視点で仕事を選ぶという意識も広がりつつあり、将来社会で消費者・市民・顧客・取引先の主体になることも意識すべき。

SDGsとの関連性を考える際のヒント（古紙業界）



字数に限りがあるので割愛するが、まずはSDGsで設定されている17のゴールとはどんなものか。入門書は多数あり、SNSでもマンガ本でもOK。私見ながら、更に上図のイメージで事業の中での取組から探しだし、自社にとってより重要な関連が深いテーマをピックアップ、自社の取り組みがSDGsのどの項目に関連するか、該当するかを整理することから始められては如何かと。

当センターも多様な立場の方々との「共通言語」ともいえるSDGsを通じた連携の積み重ねを事業運営の力に繋げてまいります。引き続きよろしくお願いいたします。

## 特集 II 安全防災委員会からのメッセージ

令和3年11月吉日

全国製紙原料商工組合連合会

組合員 各位

# 「鍵を抜け 命を守れ」

## マグネットシート配布のお願い

平素より組合運営につきましては格別のご配慮を頂き誠にありがとうございます。  
残念ながら今年に入り立て続けに3件の事故が発生してしまいました。  
ベレーラに関連する大変痛ましい死亡事故です。

【一人作業をしていなければ・・・】

【古紙詰まり除去作業の際に電源をOFFにして鍵を抜いておけば・・・】

防げていたのかも知れません。

これを受けて安全防災委員会では、「鍵を抜け 命を守れ」のマグネットシートを作成しました。前回作成したものよりも蛍光色を取り入れ目立つようにしました。危険箇所全てに貼付出来るように配布数も増やしております。ベレーラの全ての点検口の脇に貼付願います。(配電盤・点検口・攪拌機扉等の内部に侵入可能な場所)

これまで「一人作業禁止」「点検修理時の電源OFF・鍵抜き徹底」等の啓発をしてきましたが、安心・安全な作業環境構築のために改めて作業手順遵守の徹底をお願いします。

### — 最後に安全防災委員会から皆様へのメッセージです —

古紙に関わる全ての作業員の皆様へ

整備点検 トラブル対応の際は 必ず 鍵を抜き 電源OFF

どんなに忙しくても 面倒でも 命が最優先 安全第一

全国製紙原料商工組合連合会

安全防災特別委員会 特任委員長 齋藤 米蔵

関東製紙原料直納商工組合

安全防災委員会 委員長 大久保 薫

# 「鍵を抜け 命を守れ」

全国製紙原料商工組合連合会  
安全防災特任委員長 齋藤 米蔵

全原連会員の皆様は、冒頭ページの文書に見覚えがあると思います。

見た覚えが無い？

もし初見だという方がおられれば、直ぐに所属地域組合に問い合わせをお願いします。

同文書は、関東商組安全防災委員会が作成して、令和3年度の全原連の死亡事故防止のための緊急対策事業として、「鍵を抜け 命を守れ」のマグネットを、会員各社のベラー1台あたり7枚を1パックとして配布した際に、1パック毎に1枚同封した重要なメッセージです。

会員各社におかれましては、このマグネットを活用していただいていることと思います。

また、同じく緊急対策事業として同時期に配布したポスターも掲示いただいていると思います。

私達安全防災委員会は、関東商組エリアにおいては、安全セミナーや防火セミナー等の事業を実施しておりますが、全原連におきましては特別委員会として私が1人特任委員長を拝命しており、関東商組安全防災委員会の尽力により、定型事業として

◇年間安全ポスター

◇春の安全月間ポスター

◇秋の安全月間ポスター

◇防火ポスター

を作成・配布して労働災害防止の啓蒙を行っています。

コロナ禍により休止中ですが、全国の地域組



合を訪問して安全に関する会議を開催するとともに、地域色を生かしたポスター作成事業も、中部商組と九州商組の若手メンバーとの協働で実施しました。

平素は

\* 目立つこと

\* 話題になること

\* 共鳴してもらえること

を主眼にちょっと他ではお目にかかれな



## 「鍵を抜け 命を守れ」



ポスターの数々を、委員会設立以来10数年に亘ってオリジナルで作り続け、古紙問屋業界の無事故・ゼロ災を目指してまいりました。

しかしながら、今回のポスターはいつもの様な明るさや遊びの要素がなく、非常に重たく悲壮な、インパクトのあるデザインにしています。

それは何故？

誠に残念なことです。令和3年の春先に全原連会員社を含む3ヶ所の古紙ヤードでベレー作業中の**死亡事故**が発生しました。

ポスターは新聞紙面のスタイルを模して、当時の新聞やネットニュースの内容をほぼ再現してあります。

何れのケースでも原因は**ヒューマンエラー**であると推察されます。

なぜなら、ベレー作業中のトラブル対処、作業切替、メンテナンスの時に**メインスイッチをオフ**にせずに作業を行っているからです。

逆に言えば、**メインスイッチさえオフ**にして、念のために**鍵を抜いて**いればこの3件の死亡事故は発生しなかったのです。

私は平成17年に立ち上げた、安全防災委員会の前身である経営革新委員会／安全部会の発足から現在まで16年間に渡って古紙問屋業界の安全対策に携わってきましたが、その間に何回か1年未満の短期間に**死亡事故**が頻発する時期がありました。



重大事故が連続する原因については定かではありませんが、世間一般でも例えば最近の高齢者による自動車暴走事故等、同様の傾向がある様です。

そしてその都度、委員会のメンバー達と、どんな手法で業界の重大事故を防止し、ゼロ災を実現させるか？悩みながらも知恵を絞って防災対策事業を展開してまいりました。

- \*制作時のトレンドをポスターに反映させる
- \*事故事例を会員各社に開示する

等々です。

また、一方通行になりがちな啓蒙事業のみではヒューマンエラーの根絶には限界があると考え、主要ベラーメーカー各社を参集して何度も協議を行い、ICタグによる緊急停止装置の開発も実現させました。

しかしながら、その後もベラー作業中の死亡事故は発生しています。

前述の通り、殆どの事故はメインスイッチのオフによって防げていた筈なのに何故起動したままでトラブル対処等の行動をするのか？

残念ながら当事者が亡くなっておりますので推察の域を出ませんが

- \*安全よりも作業効率を優先させてしまう→早く作業を進めたい
- \*トラブル対処が慢性化して危険防止の意識が

麻痺してしまう

- \*配送トラックや荷卸しの顧客を待たせたくない
  - \*いちいちトラブル箇所と操作盤を行き来するのが面倒
  - \*自分は慣れているから大丈夫との根拠のない自信
- 等に起因してスイッチのオフを忘れる、或いは意図的にオフにしていけないのでは？と考えます。

全原連会員各社の皆様は現場作業員の安全を守るために、日々様々な方法で安全防災活動を





実行されていると思います。

しかし、経営者や管理者の思いとは裏腹に作業現場における油断や怠慢を根絶しないかぎり、重大事故発生の可能性がついて回るのではないのでしょうか？

今回、マグネットの配布枚数を増やしたのは、**操作盤**のメインスイッチを越えて、ベレーの危険作業を行おうとした時、**最終防波堤**として「**鍵を抜け 命を守れ**」のメッセージに気付かせて危険行動を思い止まらせて、現場作業員の命を守るためです。

マグネットが7枚あれば、ベレーの内部侵入口やカバーされていない可動部近辺に全て貼り付けることができます。

出来るだけ日常的にベレー作業を行う作業員に、彼等の目線で気付く位置に貼ってもらいたいとおもいます。

- \* 内部侵入口
- \* 番線インサーター付近 (可動部に巻き込まれ事故が多い)
- \* 攪拌機扉 (昨年挟まれ圧死事故発生)

その他危険と思う場所に貼り付けてください!!

但しこの最終防波堤によって「ハッ!」と気付く以前に危険作業時の**スイッチオフ**と**鍵抜き**を徹底することが肝心です。

経営者、管理者の方は作業効率や時間短縮よりも、危険を防止して命を守ることを常に伝え

てください。

また、我々が危険だと思っている作業が、日常の作業環境で当たり前に行われている様なケースもあると思いますので、経営者自らや管理者を通して作業手順や災害防止手順の見直しも実施してください。

日々の作業の中で危険意識が希薄化しない様に、繰り返し繰り返し伝え続けてください。

年末に当社の営業所長と安全について話をしていた、コロナ禍のマスクに話が及びました。**コロナ**禍の初期には、ちょっとした外出時やクルマから降りた際にマスクを付け忘れていて「アッ」と思った場面も多かったと思いますが、未だ収束の見えない現在では誰もが何ら意識することなく自然にマスクの着脱をしています。

これと同じくらい自然に**メインスイッチのオフ**と**鍵抜き**の動作をする様に習慣付けをやろう!と確認し合いました。

今、令和4年1月2日にこの原稿を書いています。年末に時間が無くて締切を過ぎてしまいました。

全原連会員の皆様、今年以降は重大事故ゼロを達成して、安全な職場を実現しましょう!!

今回は言及しませんでした、パッカー車での作業中の重大事故も多数発生しています。その他の危険作業も含めて、ゼロ災を続けましょう!!

**「鍵を抜け 命を守れ」**



## 近畿製紙原料直納商工組合青年部 紙朋会について

大和紙料株式会社  
代表取締役社長 塩瀬 宣行

今回、紙朋会の初代部長として JRPA 通信へ寄稿をさせて頂く事になりました。私が部長を務めさせて頂いた、1989年4月から2004年4月までの15年をざっと振り返って見たいと思います。

退任して今日で既に17年経っており就任からではほぼ33年が経過しようとしています。過去の記録を読み返しながら記述させて頂きませんが、中には明確な記述が無く、記憶違いもあるかと思われそうですが、お許し下さいますようお願い致します。

紙朋会の前身は、近直（近畿製紙原料直納商工組合）の若い人達の研鑽の場であったように思います。共栄紙業の当時専務だった阪本聖哲さんが近直の青年部として認められるようになるまでの数年間、この会を纏めておられたと記憶します。

当時、近直の理事長が弊社の塩瀬芳信社長（小生の父親）で、89年の春に近直青年部が正式に発足するので組合の会議に参加するよう言われました。それは3月18日の会合で、当日15名の部員の参加が有りましたが、当時の幹事連中からのご指名で寝耳に水の紙朋会初代部

長に任命されました。それ以来任期が終わる2年毎に部長の交代を申し出ましたが有耶無耶のまま15年間の長きに亘り部長を続ける事になりました。

この間に一つの大きな出来事が有り、それによって紙朋会としての活動方針が決まったように思います。

何時だかは正確には記憶していませんが、その时段ボールの需給が非常にタイトになり、紙朋会の主要メンバー6～7人位だったと思いますが、当時のある板紙メーカーに出向き、その会社のナンバー2の方に、「段古紙の需要が旺盛で、とてもメーカーの需要を賄えないし、仕入もどんどん上がって来ているので購入価格を上げて欲しい」と陳情に行きました。

その方からは意外な事に、「我々メーカーの採算が非常に厳しいので逆に値下げ協力をして欲しい」と言われ実際に値を下げられました。その頃は海外に輸出マーケットは存在せず国内メーカーへ納入するしか選択肢は有りませんでした。

ところがそれから暫くしたら、何とそのメーカーは国内の段古紙の倍程する OCC をアメリカから大量に輸入しました。

この一件で紙朋会の行動方針はほぼ決まったと言って良いでしょう。同時に大きく反省をし

ました。と言うのは、我々は古紙を集める事だけに拘り、同業の誰かが仕入で高値を出すと、"アイツには負けられない"と言って自らの首を括る事になる同業者間での仕入競争が始まるのが常でした。

1992年4月、奈良での月例会で、「これから古紙は輸出出来るようになると思うが、採算ラインに乗るまでまだ数年かかる、しかし今から海外の製紙メーカーとコンタクトを取ってその販路を開拓して置く事が必要と考える。赤字輸出をする事になるが皆さんの意見はどうか？」と尋ねた所その場に出席していた全参加者から賛同の意を得て組合の輸出事業が始まるものの、部員の皆が我々業界の先行きを不安視していたその裏返しを見る事になりました。

さて、我々に足りないのは勉強でした。製紙メーカーとのやり取りの中で常に我々の知識が不足していて、とてもメーカーの資材さんとその知識の差で話が出来ませんでした。対等とは言いませんが資材さんに近いだけの知識を持っていなければこれからも話が出来ないのは明らかでした。

それからです、世界中を見に行こうと言う結論になったのは…。

1990年にまずアメリカの西海岸から東海岸まで古紙ディーラーを見て歩きました。アメリカの古紙屋がどう古紙を取り扱っているのか、現場でじっくり見る機会がありました。その経



中国上海市の製紙メーカーで交流する  
近畿製紙原料直納商工組合の視察団(平成6年)

験をこの視察に参加した各社の新ヤード作りに生かされるようになって来ました。

2003年にはロシアの古紙マーケットの調査を企画しました。日本国内にロシアの古紙ディーラーの情報など何処にもなく、ドイツの古紙組合を通じて訪問先を紹介して貰いましたが、残念ながら当時SARSが流行っており、参加予定の部員が一人抜け二人抜け、と言う状況に陥り断念する事になりました。

2004年には、これから大きく伸長して行くであろう中国のメーカーと、当時殆ど古紙ヤードの無い中国において、上海でドイツの古紙屋が経営するヤードを見せて貰いました。

2006年には部長ではなく顧問としてドイツ・ヨーロッパの古紙事情調査に、2010年にはドイツのデュッセルドルフで開催された第13回世界古紙会議に、そして2017年には北欧の古紙業者の視察をアレンジさせて頂きました。

こうした勉強は我々の血となりそして肉となりました。然しながら原点に戻って見れば根本的にもっと勉強をして行かねばならない事が有ります。

それは当時まだ先の見えないリサイクルの行方を探る事でした。当時のノートから引用しますが、『リサイクルと言うのは常に変化する潮の流れのようなもので、決して止まる事が無く、新しい考え方が出ればその風に乗って流れの方向が変わって来る。ビジネスライクに進めるアメリカ、それを論理付けて社会の風潮を読み、世論を作りながら進めるヨーロッパ。日本はその中間辺りを行っているように見えるが、人間の倫理観を巻き込みリサイクルに最終的に決まった形は無く、何処まで行っても究極の結論は無く、それは単に商売として捉えるのではなく、人間としての大きなテーマである』と考えていました。全くその通りで古紙を集めてもその用途が定まっていなければ、使われない古紙は再び元のごみに戻ります。

そうならないように業界は全体でしっかりとした理念を作り上げて行かねばなりません。



そしてもう一つ業界として非常に大切な事が有ります。それは個々の業者がお互いの事を良く知り合う事です。そうする事で仕入等の問題が起きた時に腹を割って話し合い、無駄な競争を出来るだけ排除できるようになると考えられるからです。

東京の夢の島のごみ問題がクローズアップされ、各地の行政でごみの成分が容積比で60%、重量比で40%を占める紙ごみを集めてリサイクルさせようと言う動きが各地で盛んになり、ただ集めればリサイクル出来ると考える行政と違って我々はその出口を求めなければなりません。

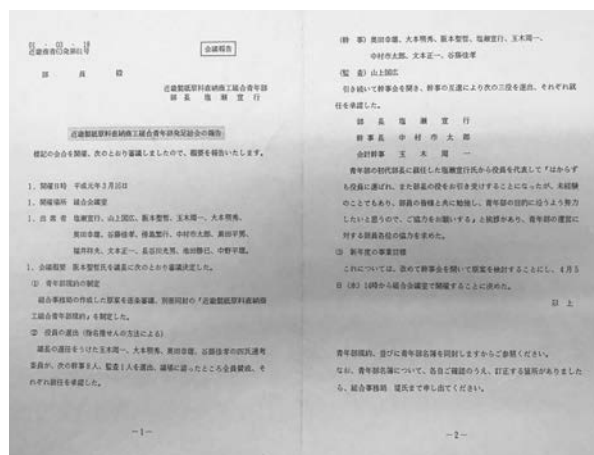
出口も決めないで、ただ"ごみ減"の為に古紙を集めて我々に押し付ける片手落ちの行政回収にどう対応して行くか、当然全原連でも大きな問題となり、この時だったと思いますが名古屋で"古紙非常事態宣言"を発出し、全国から古紙業者がこの名古屋に集まりました。

その時第2、第4の日曜日の休業が古紙業界の大きなテーマとなりました。どうすれば実現出来るか、紙朋会で色々と揉みましたが、皆が出したアイデアでは、大阪を細かく地区割にしてお互いがその実行具合をチェック、閉めていなければその地区の皆でその業者に理解を求めように話をして行くようにしました。

こうした細かい地区割が機能したのも懇親を大いに深める事が出来た結果ではなかったかと思えます。

これからの紙朋会にお願いしたい事は、我々古紙業者としての社会的地位の向上に向けての努力です。新型コロナウイルス禍の中で、我々が感染し仕事が出来なくなれば社会の静脈部分が閉塞する事になります。それは社会の歯車が回って行かない事を意味します。

我々の仕事は世間が必要としており、従ってコロナに感染し仕事に穴を開ける事は断じて許されない事なのです。所謂"エッセンシャルワーカーである"と言う自覚こそ我々の体内に醸成して置かねばならない事で、その為には感



近畿製紙原料直納商工組合青年部発足総会の報告書

染予防などの防御がシッカリ出来ていないとその役目は果たせません。

同時に今は求人難です。どうすれば人が来てくれるのか、喜んで会社で一緒に仕事をしてくれるのかが現在の業界の大きなテーマとなっていて来ています。

"我々の業種が破綻する事" = "リサイクルが潰れると言う事"です。SDGsの第9、11、12項で言われているようにこれからの世の中に我々の存在は必要不可欠です。従って我々はこの世の中で存在して行く為に金儲けをして、その存在を維持出来なければなりません。

金儲けという言葉は非常にネガティブな印象を与えますが、そうでは有りません、我々業界にとって金儲けは善なのです。悪い事ではなく良い事なのです。

古紙業界の共通の財産であるお金儲け、その為に紙朋会も全原連も存在する筈でそのポイントにフォーカスして積極的に活動される事をお願いします。

業界の益々の発展を祈念し筆を置かせて頂きます。

## 九州製紙原料直納商工組合の活動

渉外広報委員長 坪井 隆宗  
紙藍会会長 寺松 雄次

当組合（九州製紙原料直納商工組合）の前身組織である九州古紙研究会が北九州、筑豊、福岡、福岡県南、佐賀、熊本、長崎、大分、宮崎、鹿児島等の地区を支部に、会員数 50 社で昭和 62 年 4 月 1 日に設立されました。

その後、九州製紙原料直納協議会を経て、平成 5 年 7 月 20 日に、現在の九州製紙原料直納商工組合として再編成されて、現在 51 社の組織となっております。

また、青年部会である紙藍会が平成 20 年 7 月 25 日に設立されて現在に至ります。当組合の活動としましては、毎月の定例会を中心に各地区の市況や情報を密に報告・確認するとともに、市況以外でも古紙に関する教育の中心機関として、『古紙商品化適格事業所認定制度』や『古紙リサイクルアドバイザー認定制度』等の認定制度窓口としても活動しています。

特に重大事故につながるような事がない様、各組合員への事故事例報告や安全防災への注意喚起、関東商組安全防災委員会と協調しての活動等もおこなっております。



2021 年 11 月 九州商組・紙藍会合同定例会



同日、感染防止対策店での懇親会の様子

昨今のコロナ禍では、現地での定例会開催が難しい事が多く、オンラインでの定例会も多くおこなっております。

紙藍会は、2008 年に古紙研究会青年部としてメンバーを募集して、名称を『紙藍会』と改名した九州製紙原料直納商工組合の青年部会となります。

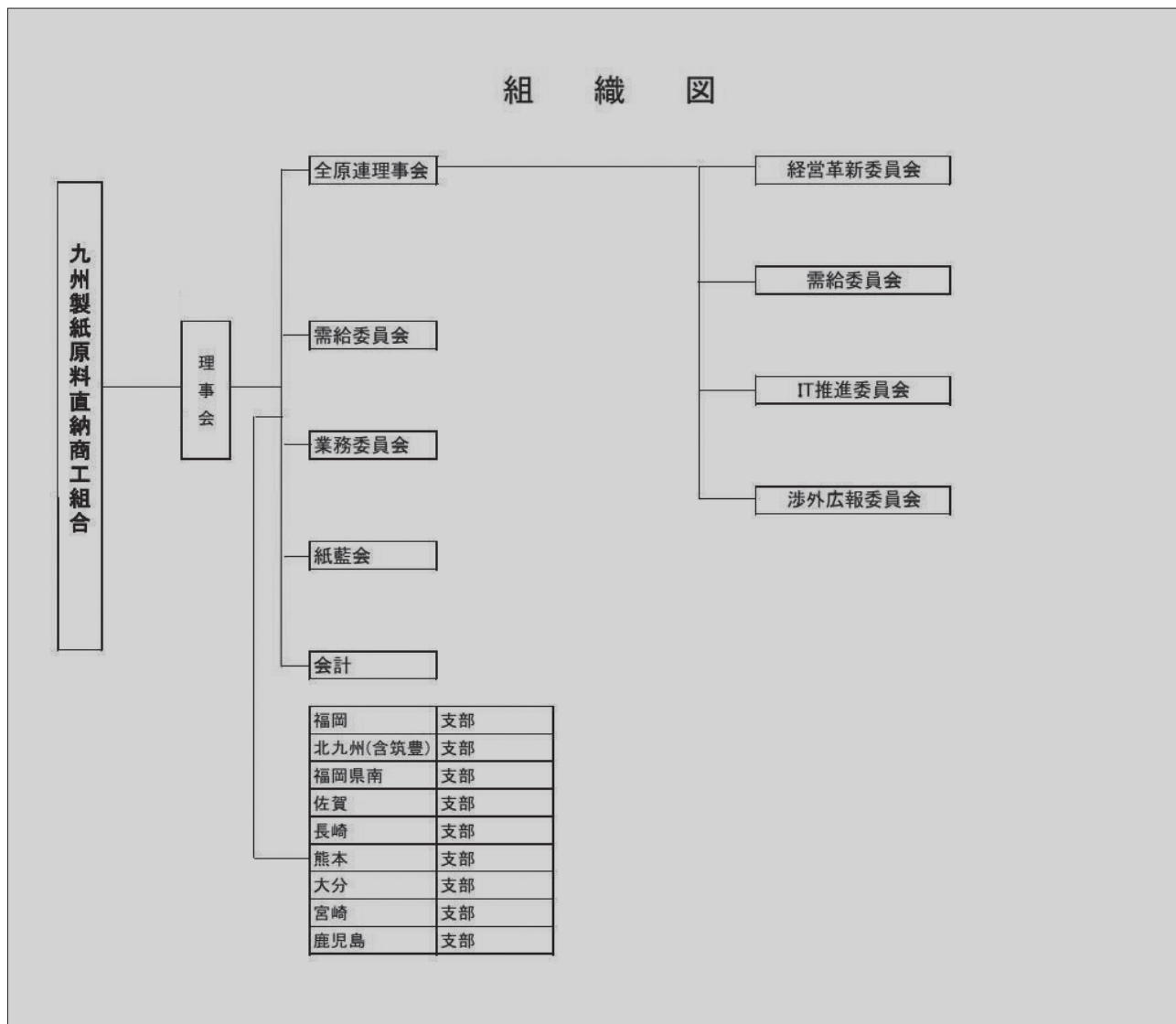
現在 25 社のメンバーにより、毎月の定例会から、六地区懇談会への参加、出前授業の実施や国内から海外までの各地視察をおこなっております。現在はコロナ禍となり、出前授業や視察等はおこなっておりませんが、六地区懇談会は六地区オンライン情報交換会として、2020 年・2021 年に幹事として開催しました。

また、2019 年時は海外視察としてベトナムを訪問し、ベトナムの製紙会社見学、日本語学校の見学等をおこないました。普段見る事のない様々な事を実際に見聞きする事で、会員一同の親睦を深めるとともに、各人の経験・資質の向上から、ひいては古紙業界の発展のために活動をおこなっております。

さて、この数年間の古紙業界は、需給のバランスや市況が大きく変動をいたしました。

今現在は、コロナウイルスの影響により古紙の発生が減少しておりますが、組合発足同時の

## 組 織 図



昭和 62 年の資料によりますと、古紙は余剰状態にあったようです。

当時の発足趣旨が書かれた書面には、「製紙関連産業の国際競争により、九州地区の製紙メーカーが勝ち残るための合理化にともない、古紙問屋も体質強化が必要」との文で始まっております。

そして、文中には「製紙メーカーの原紙の中国向け輸出」「原料直納業者の合理化」「余剰時、不足時対策」「国際環境への対応」「地方自治体等の行政サイドとの窓口」などの文面がありました。

今と比べてみましても、35 年前も同じような課題や問題を抱えていたようです。

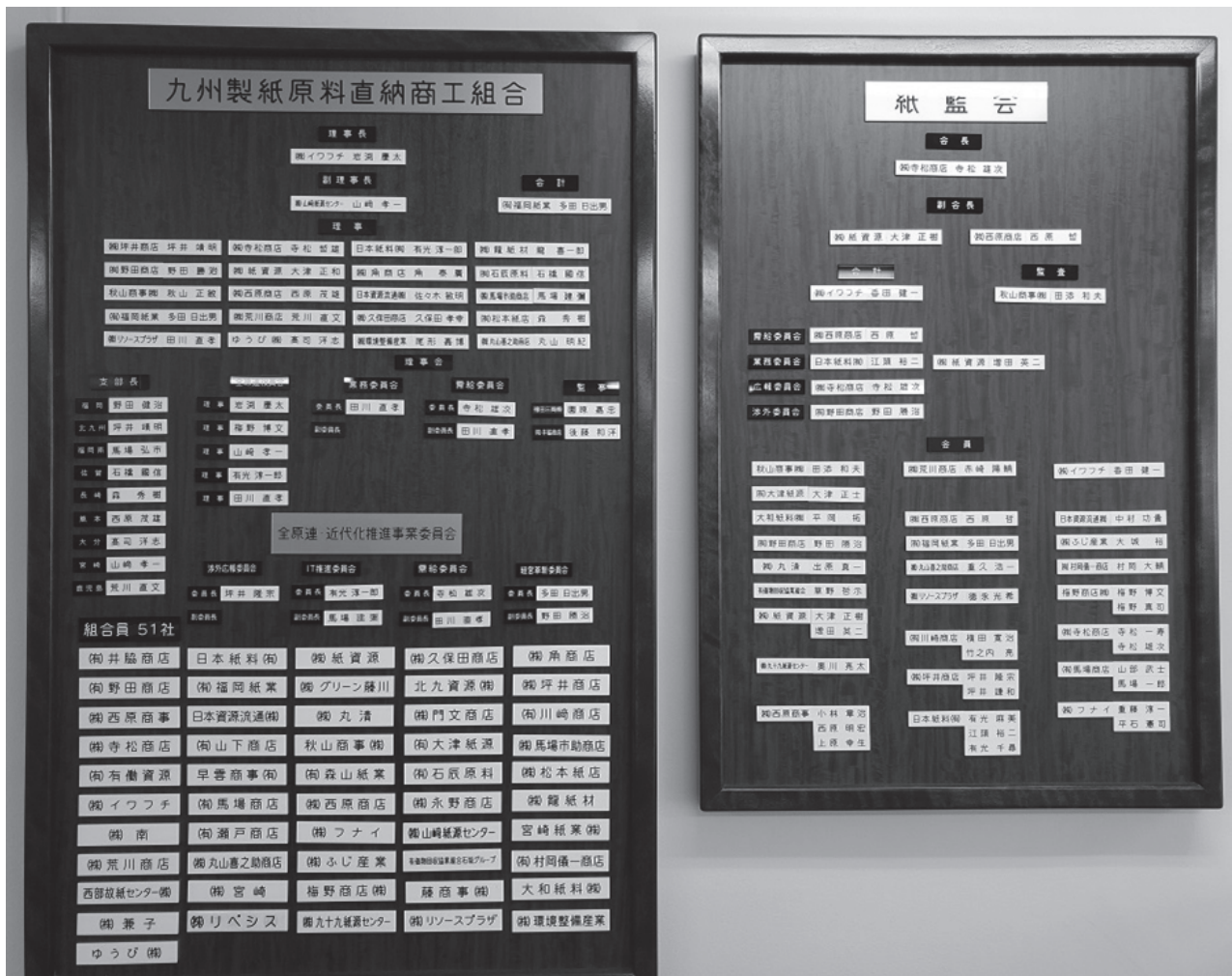
言い換えれば、今後も続いていく課題、解決

できない問題なのかもしれません。

参考までに、昭和 62 年当時の問屋仕入価格は、段ボール 13 ～ 14 円、新聞 7 ～ 8 円、雑誌 3 ～ 4 円と市況調査票に書かれておりました。

また、軽油 50 円、番線 71 円とも書かれておりましたので、コストは今より随分低かったようです。

過去と比較して今現在の古紙業界を考えると、コストアップ、人手不足、減りゆく印刷媒体、需給バランスや市況の変動、仕入価格競争など問題は沢山ありますが、改めて次の時代に向けて組合員一同邁進して参りたいと思います。



### 青年部紙藍会活動紹介



熊本での出前授業風景



Hiteco(ベトナム日本語学校)にて



An Binh paper(ベトナム)にて

## 協賛各社

本誌発行にあたり協賛いただいた各社へ厚く御礼申し上げます。  
ご協力いただいた組合員の会社名を所属組合ごとに「協賛各社」としてご紹介させていただいています。

### 【北海道製紙原料直納商業組合】

旭川協栄紙業 株式会社

永大紙業 株式会社

三栄紙料 株式会社

有限会社 高瀬産業

株式会社 長勢紙業

株式会社 北海紙業

有限会社 丸昭上川原商店

株式会社 丸升増田本店

### 【東北製紙原料直納協同組合】

株式会社 SKトレーディング

株式会社 このの

株式会社 高良

株式会社 山傳商店

### 【全原連 新潟ブロック】

株式会社 帆苧商店

### 【全原連 北陸ブロック】

イシモト環境資源開発 株式会社

清水紙料 株式会社

株式会社 増田喜

株式会社 島田商店

### 【長野県製紙原料直納商組合】

前田産業 株式会社

### 【東京都製紙原料協同組合】

株式会社 工藤商店

### 【関東製紙原料直納商工組合】

新井紙材 株式会社

株式会社 新井商店

飯野紙業 株式会社

株式会社 今井

株式会社 ウェル

ウブカタ資源 株式会社

王子浮間古紙センター 株式会社

王子斎藤紙業 株式会社

株式会社 大久保

株式会社 海原

株式会社 梶谷商事

株式会社 金子商事

株式会社 金澤紙業

株式会社 川鈴

株式会社 木場リサイクル

株式会社 共益商会

株式会社 久米川紙業

栗原紙材 株式会社

株式会社 グリーン

株式会社 國光

株式会社 小池商店

株式会社 近藤商店

株式会社 佐久間

株式会社 斎藤英次商店

株式会社 斎藤商店

株式会社 山愛

有限会社 榊原商店

三弘紙業 株式会社

株式会社 須賀

株式会社 高岡

株式会社 坪野谷紙業

株式会社 富澤

東京紙業 株式会社

合資会社 豊田八郎商店

株式会社 中田

永田紙業 株式会社

有限会社 根本商店

株式会社 ハイグレード

株式会社 パルコム

株式会社 藤川紙業

株式会社 富士商会

株式会社 ブシュー

株式会社 二見

株式会社 北越マテリアル

株式会社 増田商店

株式会社 丸栄商店

株式会社 水越

皆川商事 株式会社

美濃紙業 株式会社

むさし野紙業 株式会社

株式会社 山室

株式会社 和光

**【静岡県製紙原料商業組合】**

株式会社 アカツキ

株式会社 市川商店

株式会社 稲葉

株式会社 開発紙業

株式会社 兼子

株式会社 スギヤマ紙業

松岡紙業 株式会社

株式会社 丸興佐野錦一商店

株式会社 丸元紙業

株式会社 岩田商店

**【中部製紙原料商工組合】**

株式会社 石川マテリアル

株式会社 金光

興亜商事 株式会社

ニチモウ商事 株式会社

北勢商事 株式会社

リメイキング 株式会社

**【近畿製紙原料直納商工組合】**

株式会社 アライの森

木下紙業 株式会社

共栄紙業 株式会社

實守紙業 株式会社

玉木紙料 株式会社

大和紙料 株式会社

共和紙料 株式会社

前田紙業 株式会社

株式会社 福井商店

靖国紙料 株式会社

株式会社 吉田稔商店

**【京都府紙料協同組合】**

関西紙料 株式会社

**【中国地区製紙原料直納商工組合】**

株式会社 磯野商店

株式会社 こっこー

周南総合リサイクル 株式会社

玉川慶洙商店 株式会社

株式会社 樋口敦郎商店

福中商店 株式会社

株式会社 本田春荘商店

明和製紙原料 株式会社

安田金属 株式会社

**【九州製紙原料直納商工組合】**

株式会社 イワフチ

株式会社 坪井商店

株式会社 永野商店

日本紙料 有限会社

株式会社 ふじ産業

株式会社 松本紙店

有限会社 村岡儀一商店

有限会社 山下商店

ゆうび 株式会社

有価物回収協業組合石坂グループ

株式会社 リソースプラザ



# POSTSCRIPT

「世の中の事はすべて心の持ちよう一つで  
どうにでもなる」

2021年のNHK大河ドラマ『青天を衝け』  
の主人公「日本資本主義の父」とも称される渋  
沢栄一の残した数ある名言の中のひとつです。

渋沢栄一は、その生涯において金融から  
製紙業、鉱業など約500の会社に関わり、  
同時に約600の社会公共事業に尽力し、  
2024年には20年ぶりに刷新される新  
一万円札の顔となります。ドラマでは激動の  
幕末から明治までが描かれ、毎週楽しみに見  
られた方も多いのではないのでしょうか。

さて、2020年以降コロナウイルスの感  
染拡大によって世界経済も一時は危機に直面  
し、また、私たちの日常生活も今までとはず  
いぶんと変わりました。イベントの中止やテ

レワーク、旅行や外出を控えたり。皆さんも  
大変な中、いろいろと試行錯誤されたのでは  
ないでしょうか。

何度かの緊急事態宣言を繰り返し、2年経  
とうとしています。新たな変異株の流行も懸  
念され、厳しい状況はまだ続きそうです。で  
すがここは心の持ちよう、困難を嘆くより  
コロナ禍の今だからこそできること、今しか  
できないことを模索しながら少しでも明るく  
ポジティブに、この時代を乗り切って行きた  
いと思います。

第5号編集長 中村 昌延  
(全原連 渉外広報委員会)  
(近畿商組 渉外広報委員)

■ 2022年8月発行予定 NO.6の編集長は北  
海道商組渉外広報委員会の上川原昭委員です。

■リサイクル関連機器メーカー

## 渡辺鉄工株式会社

代表取締役社長 渡辺 雅之

本社 〒830-0841  
福岡県久留米市御井旗崎2丁目25番25号  
TEL 0942-43-9111/FAX 0942-43-7521

Go Green



正隆集團  
CHENG LONG GROUP

正隆グループ

資源の有効利用を追求する

## 山發日本株式会社

YAMAHATSU NIHON CO.,LTD.

〒104-0061  
東京都中央区銀座3-4-6 正隆銀座ビル7階  
TEL:03-5250-0928 FAX:03-5250-0938  
<http://www.yamahatsu.co.jp>

- 古紙・古着・廃プラ・損紙等の買取・輸出
- 工作機械の輸入販売
- 段ボール原紙の輸出入販売
- LED照明の輸入販売
- 運送取次・その他輸出入業務代行
- 古紙用番線の輸入販売

## 新聞雑誌選別、さらに革新。

### 細切装置付選別コンベアライン

ヤードスペースに合わせ、自由にレイアウト。

#### 営業品目

- 各種破袋装置
- 古紙梱包機投入用コンベア
- 空カン・空ビン選別コンベアライン
- 各種シュレッダー投入用コンベア
- 再生資源産業用各種コンベア
- 各種省力機械設計・制作

## 株式会社 拓己技研

〒444-0937 愛知県岡崎市島坂町字川田5番地3  
TEL (0564)64-3692 FAX (0564)64-3693



紙は、「知」を育む  
紙は、人の五感に対して高い親和性があり、電子媒体よりも長く記憶に残ると言われています。人の「知」の構築にとって不可欠なだけでなく、生活のあらゆる場面でも利用されてきた紙。私たち国際紙パルプ商事は、紙の良さをこれからもみなさまに伝えてまいります。

国際紙パルプ商事株式会社 KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD. 〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号  
TEL (03)3542-4111 (代)

tam 東京自働機 処理スピードと独自のアイドリングストップで、消費電力を極限まで削減!!

## 省エネNo.1ベアラー誕生!

Weco  
タムベアラー  
スピード×省エネ  
TAMベアリングシステムRSEシリーズ

株式会社 東京自働機製作所  
〒101-0032 東京都千代田区東本町3丁目10番7号(東白根ビル)  
URL: <http://www.tam-tokyo.co.jp>  
工場: 〒277-0885 千葉県柏市西原7-3-1

TEL 04(7152)2282  
Mail [balersystem@tam-tokyo.co.jp](mailto:balersystem@tam-tokyo.co.jp)

Link  
リンク コーポレーション グループ

古着の貿易のことなら…

## (株)エバーアドバンス

茨城本社/TEL.0297-21-3325  
東京事務所/TEL.03-6260-8161  
九州工場/TEL.0949-52-8900  
(関連会社)

## OVOL

紙、そしてその向こうに。

私たちはビジネスパートナーの皆様  
頼れる水先案内人として、  
「紙」と、その先を見据えた明日へ航行してまいります。

日本紙パルプ商事グループ

[www.kamipa.co.jp/](http://www.kamipa.co.jp/)

お問い合わせ先  
ビジネスソリューション営業第一部  
営業担当: 神崎 貴信  
TEL: 03-4233-0945 FAX: 03-5463-1138  
\*旧社名 東芝ソリューション販売株式会社  
2019年7月1日より社名変更となりました。

## WorkVision

Creating Value for The Future

システムは「所有」から「利用」へ!

### リサイクルシステム クラウド版リリース

- シンプルで即戦力!
- セキュリティと災害に強い!
- サーバ購入・管理不要!